報道関係者各位

2026 年 11 月 5 日

日本歯科医師会
Japan Dental Association

日本歯科医師会「歯科医療に関する一般生活者意識調査 2026」1 万人調査

世界と比べた日本の歯科医療費、8 割が安い※と評価

そのうち 75.3%が「今の仕組みを続けてほしい」

公益社団法人日本歯科医師会（所在地：東京都千代田区、会長：高橋 英登、以下、日本歯科医師会）は、全国の 15～79 歳の男女 10,560 人を対象とした「歯科医療に関する一般生活者意識調査 2026」の結果を発表します。本調査では、「日本の歯科医療費」「国民皆歯科健診と若年層の受診」「子どもの受診」「プロケアの重要性とかかりつけ歯科医」「歯科医院でのホワイトニング」などのテーマについて聴取しました。本リリース（第 1 弾）では、このうち**「歯科医療費」「国民皆歯科健診と若年層の受診」「プロケアの重要性とかかりつけ歯科医」**の 3 テーマについて発表します。

【調査結果トピックス】

1. **世界と比べた日本の歯科医療費、80.7%が「安い」※と実感**
   ・そのうち 72.9%が「少ない負担で歯科治療を受けられる日本の環境には価値がある」、75.3%が「今の仕組みを続けてほしい」と回答
2. **定期的な管理を受けている人は全体で半数（50.3%）**
   ・全年代で女性（57.2%）が男性（43.2%）を大きく上回る。年代別では 70 代の 66.1%に対し、20 代は 35.4%と定期的な管理を受ける割合に約 30 ポイントの開き
3. **歯科健診の充実には 86.3%が賛成（70 代では 94.5%）**
   ・受診しようと思う条件は「無料であれば（40.8%）」「近くの歯科医療機関で受診できれば（37.2%）」が上位
4. **「健康維持に歯や口の健康は不可欠」93.0%の一方、プロケアの重要性の認知は 32.1%**
   ・ほとんどの人が、「健康維持に歯や口の健康は不可欠」と答えたが、定期管理を受けていない層に限ると、「セルフケアに加え定期的なプロケアが重要」と知る人は 21.3%にとどまる

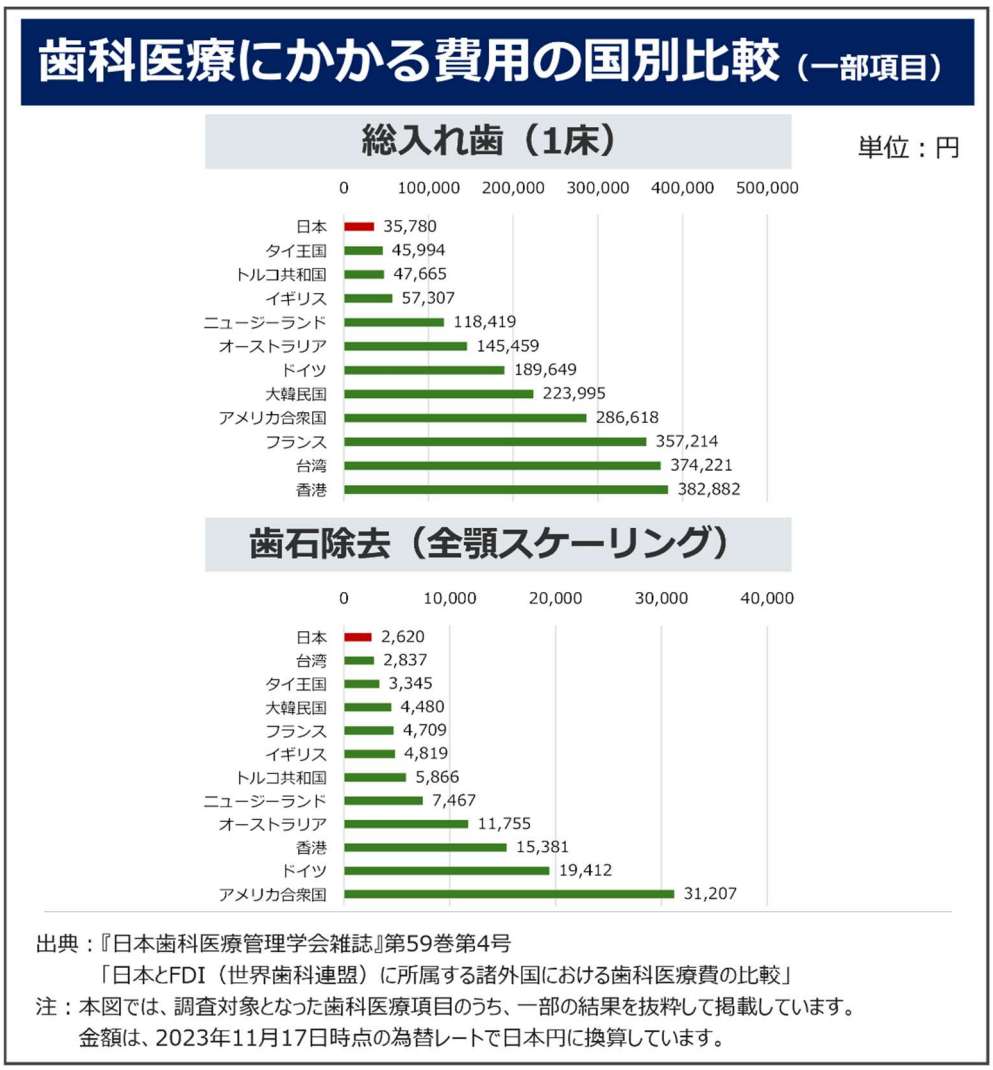
※日本と世界の歯科医療費の比較図を見て、「想像より安かった」「想像通りだった」と回答した人の合計

1. 世界と比べた日本の歯科医療費 ― 8 割が安いと評価

■ 世界と比べた金額を知ると、52.4%が「想像より安かった」。「想像通り」を合わせると、8割が「安い」と感じる

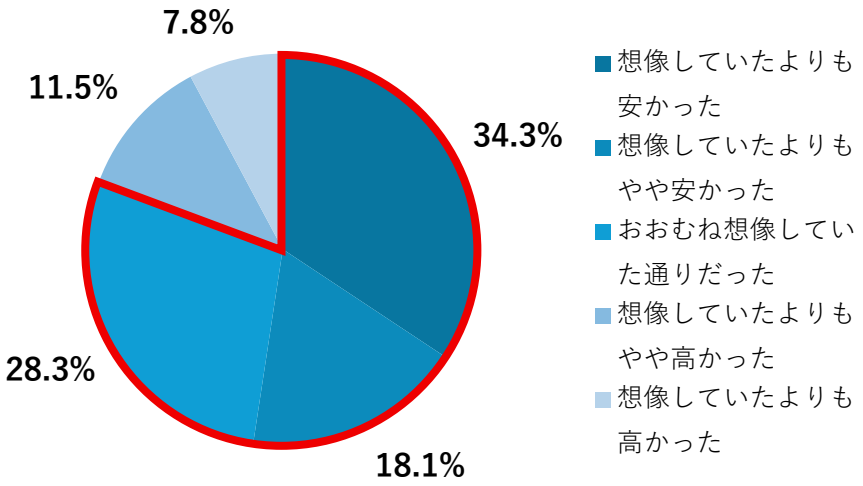
歯科医療機関での代表的な治療費について国別の比較を示したところ、**「想像していたよりも安かった」（34.3%）**、**「想像していたよりもやや安かった」（18.1%）**、**「おおむね想像していた通りだった」**※**（28.3%）**を合わせた **80.7%**が、日本の歯科医療費は各国に比べて安いと感じていることがわかりました。

※「おおむね想像していた通りだった」：各国に比べて日本の歯科医療費が安いことを認識していた人



Q. この図は、歯科医院での代表的な治療にかかる費用を国別に比較したものです。

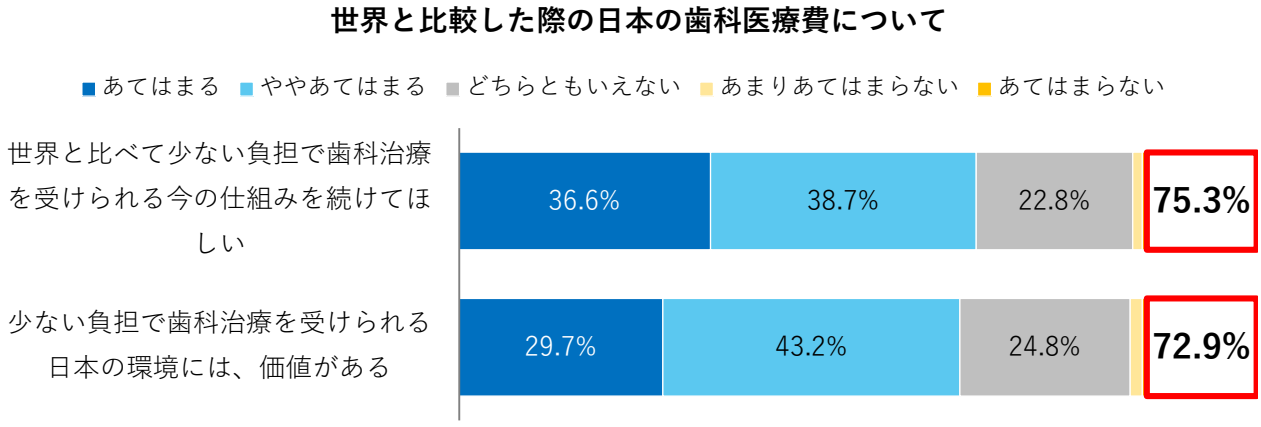
この図を見て、日本の歯科治療にかかる費用をどのように感じましたか。※「安いと感じている」は、「想像していたよりも安かった」「想像していたよりもやや安かった」「おおむね想像していた通りだった」の合計（n=10,560）



■ 安いと感じる人の 75.3%が「今の仕組みを続けてほしい」

日本の歯科医療費を各国に比べて安いと感じている人に、比較図を見た後の気持ちをたずねたところ、**「少ない負担で歯科治療を受けられる日本の環境には、価値がある」は 72.9%**、**「世界と比べて少ない負担で歯科治療を受けられる今の仕組みを続けてほしい」は 75.3%**に達しました。日本の歯科医療費の安さを認識すると、その多くが、**今の仕組みの価値を評価する**ことがうかがえます。

Q. この図を見て、あなたのお気持ちにあてはまるものをお選びください。
※赤枠内「あてはまる」「ややあてはまる」の合計（日本の歯科医療費を安いと感じている人、n=8,522）



2. 歯科医療機関での受診状況の性年代ギャップと、歯科健診の充実への高い期待

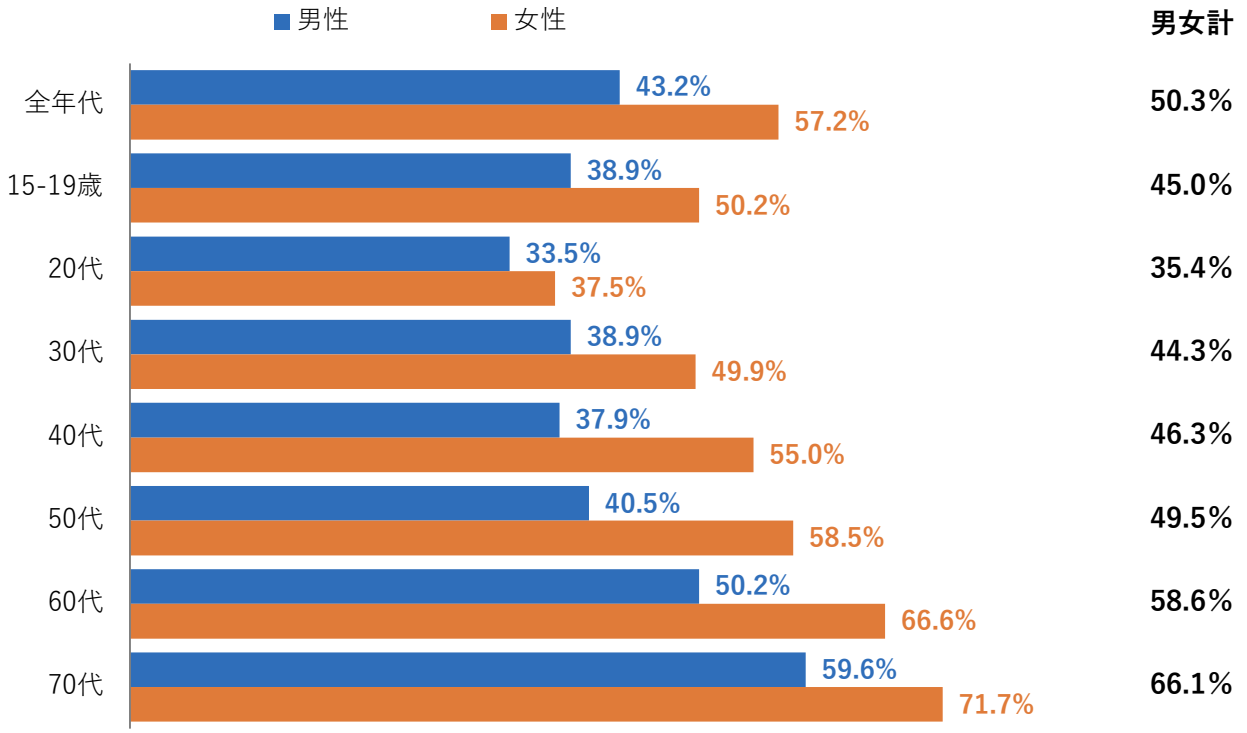
■ 定期的な管理を受けている人は女性 57.2%、男性 43.2%。男女とも 20 代で最も低く、70 代で最も高い

現在、歯科医療機関で**定期的な管理（チェックやクリーニング）を受けている人は、全体で 50.3%**でした。男女別では**女性 57.2%**、**男性 43.2%**で、すべての年代で女性が男性を上回りました。年代別で見ると、**70 代が最も高い（男女計 66.1%）**一方、男女とも **20 代が最も低く（男女計 35.4%）**、若年

層の定期受診が定着していない実態が顕著となりました。

Q. 現在、歯科医療機関で治療や定期的な管理（チェックやクリーニング）を受けていますか。

※「定期的な管理を受けている」は、現在、治療中で定期的な管理も受けている人と、治療は受けていないが定期的な管理を受けている人の合計（n=10,560）



■ 治療や定期的な管理を受けない理由、最多は「面倒だから」29.9%。「気にはなるが、ひどい状態ではないから」も 16.5%

なぜ定期的な通院が進まないのか。現在、治療や定期的な管理を受けていない人、またはこれまで受けたことがない人にその理由をたずねたところ、「面倒だから」（29.9%）が最も多く、**「悪いところがないから」（16.7%）、「気にはなるが、ひどい状態ではないから」（16.5%）**が続きました。「自覚症状がない、あってもわずかな人」に健診の大切さが浸透していないことがうかがえます。

※現在、治療や定期的な管理を受けていない人、またはこれまで受けたことがない人（追加設問回答者のうち、n=1,587／複数回答）

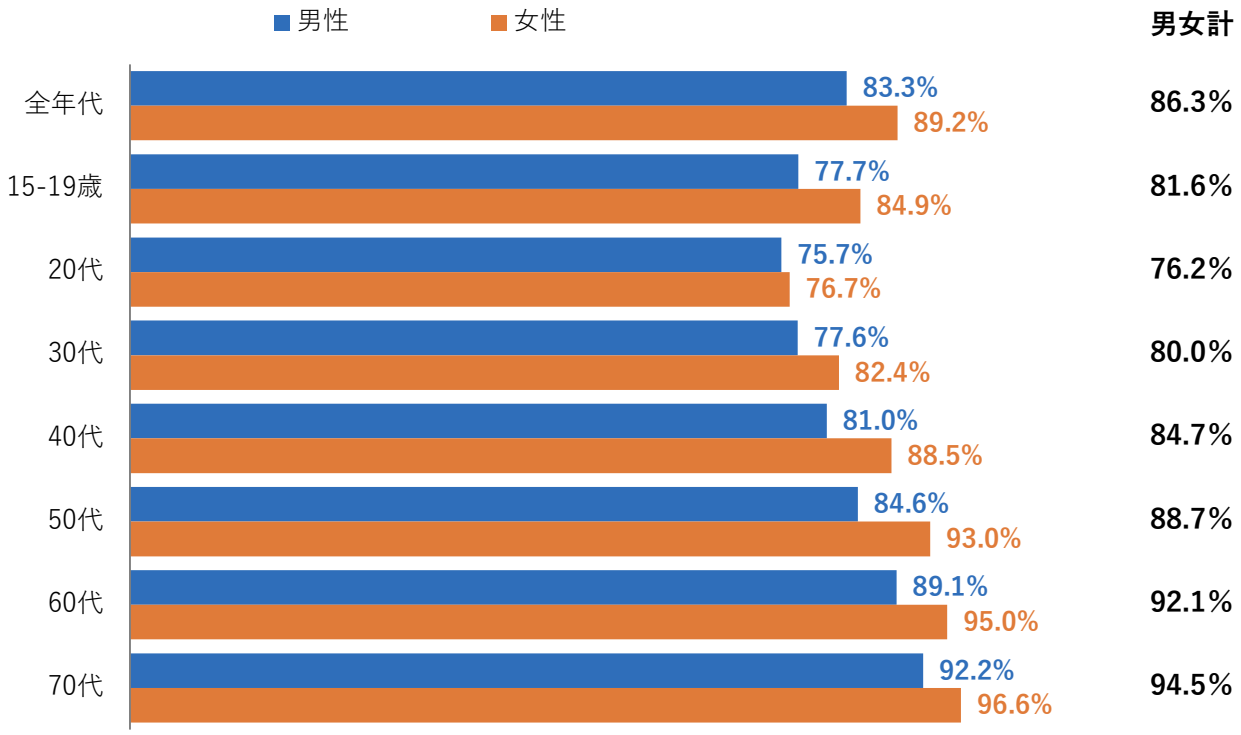
■ 歯科健診の充実を「良いと思う」人は 86.3%。70 代では 94.5%に

すべての国民を対象とした歯科健診の充実に向けた検討が今後本格化する予定であることを示したうえで、歯科健診が充実することへの印象をたずねました。その結果、**「良いと思う」「まあ良いと思う」と回答した人が 86.3%**にのぼりました。年代別では **70 代が 94.5%で最も高く**、定期的な管理を受けている割合が最も低い **20 代**でも **76.2%**と、4 人に 3 人以上が肯定的に捉えています。

Q. 丈夫な歯を維持することによって心身機能の低下や病気の誘発を防ぐことを目指し、すべての国民

を対象として、歯科健診の充実に向けた検討が今後本格化する予定です。あなたは歯科健診が充実することに対してどのような印象をお持ちですか。以下の中からあてはまるものを 1 つ選んでお答えください。

※「良いと思う」「まあ良いと思う」の合計（n=10,560）

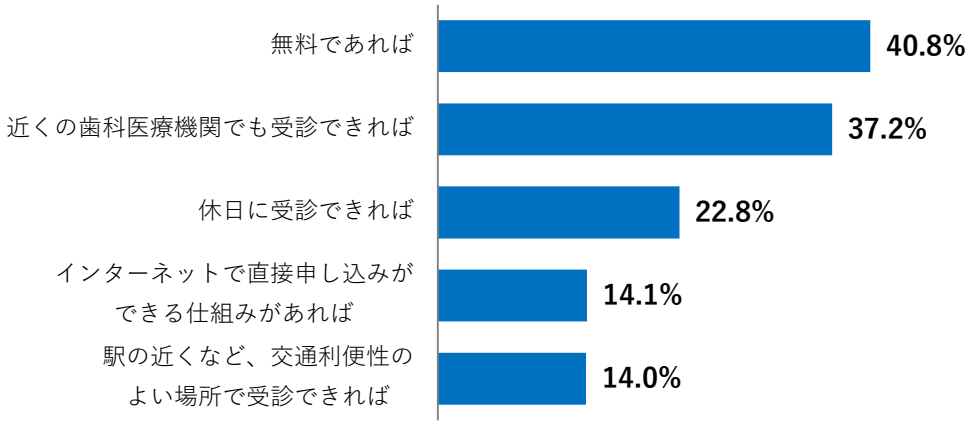


■ 歯科健診を受診しようと思う条件、「無料であれば」が 40.8%で最多

では、健診を実際の受診行動につなげるには何が求められるのか。歯科健診を受けやすくするための意見をたずねたところ、**「無料であれば」が 40.8%**と最も多く、**「近くの歯科医療機関でも受診できれば」が 37.2%**となりました。費用の負担がないことに加え、身近な歯科医療機関で受けられることが、受診行動につながると考えられます。

Q. 今後、歯科健診の充実に向けて、具体的にどのようなことが整備・改善されると、歯科健診を受ける意向が高まると思いますか。

※（複数回答、n=10,560）より上位 5 項目を抜粋



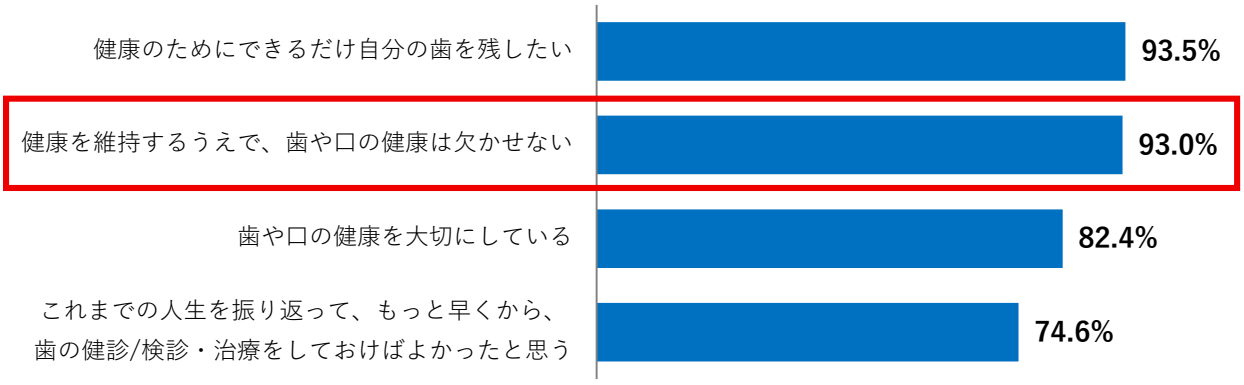
3. 歯や口の健康は「欠かせない」のに、定期的に通う人は約半数 ― カギは「プロケアの重要性」の認知

■ 9 割超が「全身の健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と回答

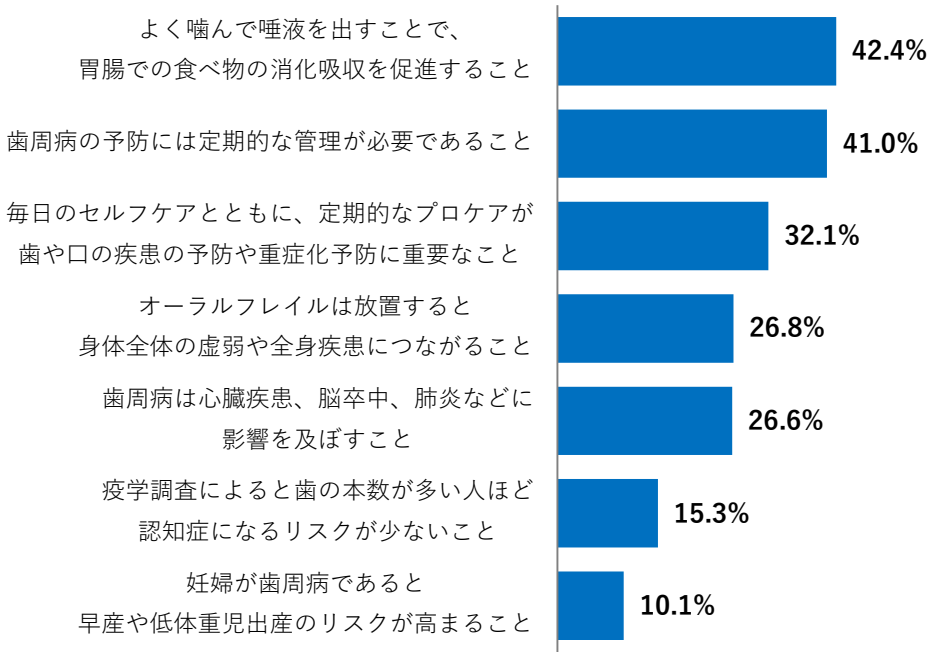
歯や口の健康と全身の健康に関する事柄のうち、知っているものをたずねました。「オーラルフレイルは放置すると身体全体の虚弱や全身疾患につながること」26.8%、「歯周病は心臓疾患、脳卒中、肺炎などに影響を及ぼすこと」26.6%、「糖尿病と歯周病の間には深い相関関係があること」21.2%にとどまりました。93.0%もの人が、「健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と答えたにもかかわらず、全身の健康にどう影響するのかについての理解は広がっていないことがわかります。

Q. 生活や健康に関する事柄について、あてはまるものをそれぞれ 1 つ選んでお答えください。

※「そう思う」「ややそう思う」の合計（n=10,560）



Q. 以下の事柄について、あなたが知っていることをすべてお答えください。（複数回答、n=10,560）



■ 定期的な管理を受けていない人の約 8 割が、プロケアの重要性を知らない

9 割超が「全身の健康を維持するうえで、歯や口の健康は欠かせない」と認識しているものの、現在、定期的な管理を受けていない人に限ると、**プロケアの重要性を知っている人は 21.3%**にとどまり、**78.7%が知らない**という結果になりました。定期的な管理を受けていない人には、プロケアの重要性への理解が広がっていないことが明らかになりました。

※「定期的な管理を受けていない人」は、現在治療中だが定期的な管理は受けていない、治療を中断している、過去に治療を受けたが定期的な管理は受けていない、これまで受けたことがない人の合計（n=5,256）。「プロケアの重要性を知らない」は「毎日のセルフケアとともに、定期的なプロケア（歯科医療機関でのチェックやクリーニング）が歯や口の疾患の予防や重症化予防に重要なこと」を選択しなかった人の割合。

■ かかりつけ歯科医がいても、25.3%は治療・定期管理を受けていない

「かかりつけ歯科医」がいる人は 64.4%、いない、または治療や定期管理を受けたことがない人は 35.6%でした。また、かかりつけ歯科医がいる人でも、74.7%が治療・定期管理を受けている一方、25.3%は受けていませんでした。かかりつけ歯科医の重要性への認識が進んでおらず、すでにかかりつけ歯科医がいる人でも、定期的な管理への理解が十分ではないことがわかりました。

※かかりつけ歯科医の有無：（n=10,560）治療や定期管理を受けたことがない人は「かかりつけ歯科医がいない」として集計。／治療・定期管理の有無：かかりつけ歯科医がいる人（n=6,799）。「治療・定期管理を受けている」は「現在、治療を受けている」「現在は治療を受けていないが、定期的な管理を受けている」の合計。

■ 日本歯科医師会 会長 高橋 英登 コメント



高橋 英登

日本は、世界と比べて著しく少ない負担で歯科医療を受けられる国です。今回の調査では、その事実を知ることで、多くの方が今の皆保険制度を評価することがわかりました。また、大多数の方が歯科健診の充実を望んでいるにもかかわらず、歯科医療機関で定期的な管理を受けている人は男女とも 20～30 代で少なく、各学校検診終了後の全世代にわたる歯科健診の必要性が浮き彫りになりました。このことから、国民皆歯科健診の実現が急務であると言えます。また、歯やお口の健康が全身の健康と関わっていることへの理解は進んだ一方で、具体的にどう全身の健康に影響するかについての認識はまだ広がっていません。このことについての啓発にも努めていく必要があります。今後も日本歯科医師会は健康寿命延伸の実現への歩みを続けてまいります。

【調査概要】

調査名：歯科医療に関する一般生活者意識調査 2026

調査主体：公益社団法人日本歯科医師会

調査方法：インターネット調査

調査地域：全国

調査対象：15～79 歳の男女（医療・福祉、マスコミ・広告代理店、調査機関の従事者とその家族を除く）

有効回答数：10,560 人（うち 3,283 人に追加設問を実施）

調査期間：2026 年 8 月 28 日～8 月 31 日

調査実施機関：株式会社インテージヘルスケア

※母集団の性・年代・エリアの構成比に合わせてウエイトバック集計を行っています。

※構成比は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

※本調査結果をご掲載いただく際は、「日本歯科医師会『歯科医療に関する一般生活者意識調査 2026』」とクレジットの記載をお願いいたします。

【日本歯科医師会について】

日本歯科医師会は、わが国の歯科医師社会を代表する公益団体であり、医道高揚、国民歯科医療の確立、公衆衛生・歯科保健の啓発及び学術研修事業、ならびに歯科医学の進歩発展を図り、国民の健康と福祉を増進する事業等を行っています。

名称：公益社団法人日本歯科医師会
会長：高橋 英登
所在地：〒102-0073　東京都千代田区九段北 4 丁目 1 番 20 号

日本歯科医師会
PR キャラクター よ坊さん

＜本件に関するお問い合わせ＞

公益社団法人日本歯科医師会 広報課　TEL：03-3262-9322

公益社団法人日本歯科医師会 広報事務局　担当：佐藤、佐々木

TEL：03-6427-1627　FAX：03-6730-9713　E-mail：contact@kartz.co.jp